

APHS 2024 参加報告

上尾中央総合病院 外科
岡本 信彦

この度は、APHS Scholarship 2024 へ選出していただき、誠にありがとうございました。2024 年 10 月にシンガポールで開催された World Congress of Abdominal Wall Hernia Surgery (WCHS)に参加いたしましたのでご報告いたします。

WCHS2024 は 2024 年 10 月 9 日から 12 日にかけて、シンガポールの Suntec convention center で開催されました。私は 10 日の自院での外来ののち、夜から羽田空港へ向かい深夜便でシンガポールへ入りました。チャンギ空港から中心部へは地下鉄 (MRT) も便利です。日本ではようやく秋らしい気候となってきましたが、MRT の出口を出たときの蒸し暑さは 1 か月時を戻したようで、赤道直下の国を感じました。会議場はシンガポールの中心街にあり、有名なマーライオンやマリナーベイ・サンズからも徒歩圏内です。

私は 11 日と 12 日の main congress のみの参加でしたが、会場は多くのヘルニア外科医の熱気に満ちておりました。アジア各国をはじめとして、欧州、米国、南米からも多くの著名な先生方の講演を聞くことができました。特に、米国からの Dr. David Chen、Dr. Conrad Ballecer など、スーパースターの先生方の講演を多く拝聴できたのは印象的で、ヘルニア診療へのモチベーションが一層高まりました。自身の発表は前立腺がん術後のロボット支援ヘルニア修復術に関する ePoster でしたが、アジアではお隣の韓国以外ではロボット支援手術は少ないようで、まだまだこれからの領域と感じました。



11日の夜にはDr. Yuri Novitskyの講演会がありました。日本から多くの先生が参加され、講演とともに0次会から多くの先生方と交流できたのは貴重な経験でした。2次会では、せっかくシンガポールに来たので、ラッフルズホテルでシンガポールスリングをと繰り出しましたが、金曜日の夜ともあって大賑わいでした。遅くまでお付き合いいただいた先生方あ

りがございました。それでも、翌朝は早起きしてマリーナベイ地区をジョギングしています。シンガポールでも健康志向の高まりからか、早朝ジョギングをしている人がたくさんいるようでした。

滞在時間が短かったため観光はまちなか中心でした。天気が悪い予報でしたが、雨に降られる時間はほとんどありませんでした。シンガポールは人種のるつぼと言われますが、それぞれのコミュニティは特色があり大変興味深かったです。また、せっかくですのでマリーナベイ・サンズの展望デッキへも登りましたが、さすがの夜景で感動しました。このために重いフルサイズセンサーカメラを持参した甲斐がありました。

来年の APHS はインドのニューデリーで、再来年は大阪での開催となります。今回の経験から来年以降も積極的に APHS に参加し、少しでも日本のヘルニア診療のプレゼンスを高めるためお役に立てればと思っております。最後になりましたが今回の Scholarship にあたり、日本ヘルニア学会理事長蜂須賀丈博先生、国際委員会委員長三澤健之先生はじめ、関係各位に改めて感謝申し上げます。

